

プロジェクト課題活動実績

課題名：阿武萩トマト産地の維持・発展

萩農林水産事務所農業部 チーム員：兼常久美子、岡崎仁、吉原茂昭、前田剛、大澤朋子

<活動事例の要旨>

生産者の高齢化が進む夏秋トマト産地（山口あぶトマト）の維持・発展及び集落営農法人連合体（萩アグリ(株)）による新規トマト栽培事業の円滑な運営による地域営農の継続を目指し、活動を行った。

山口あぶトマトでは、部会や関係機関と連携し、就農希望者の募集活動として「就農ゆめツアー」の開催を支援した。

また、先進地視察や遊休施設等の調査等、受入体制の改善に向けた取組みを行った。

さらに、新規就農者の早期経営安定や部会全体の生産安定に向けた取組を実施した。

新規に施設園芸事業に取り組む萩アグリ(株)へは、運営初期段階であることから、役員と現場担当者との協議が円滑に進むような運営体制づくりを支援するとともに、社内における経営課題の整理や共有を進め、生産性向上に向けた取組を実施した。

1 普及活動の課題・目標

(1) 課題の背景

管内の山口あぶトマト部会高俣支部は生産者の高齢化やリタイアにより、生産者数、栽培面積が減少し、産地の縮小が懸念されている。産地の維持発展のため、新規就農者の確保・育成や、中核生産者の育成に向けた取組を実施する必要がある。

新規就農者の確保・育成としては、これまで部会や関係機関と連携し行ってきたが、産地の核となる生産者の確保・育成が課題となっている。また、産地の抱える生産課題として、夏期の高温による収量・品質の低下や病害虫の発生があげられ、部会全体の単収向上に向けた取組が求められている。

萩アグリ(株)は、環境制御型施設で令和4年から本格的にトマト・ミニトマトの栽培を開始している。これに伴い、新しく従業員を雇用し、運営体制の整備、環境制御技術の習得等に取り組んでいるが、現状では、日常の管理作業に追われ、目標達成にむけた課題解決が後回しにされている。このため、運営体制の確立支援を行うとともに、従業員の環境制御技術の習得、効率的な作業体制の確立による生産性の向上が必要である。

(2) 目指すべき方向性

山口あぶトマト

- ・ 就農希望者の受け入れ体制の強化と新規就農者の早期経営確立による産地の担い手の確保
- ・ 中核生産者の規模拡大、後継者支援による山口あぶトマト産地の維持・発展

萩アグリ(株)

- ・ 新規トマト栽培の円滑な運営と雇用者の確保による地域営農の継続

2 普及活動の内容

山口あぶトマト

(1) 担い手の確保・育成

ア 新規就農者受け入れ体制の検討、新規就農者の募集活動

新規就農者の受け入れ体制を再検討するため、関係機関での協議を行った。

現状の課題整理と課題解決にむけてのアクションを検討し、地域内からの新規就農者確保は難しく地域外から確保する必要があること、農地・施設等の確保に関する負担を少なくする必要があることなどが再認識された。

また、就農地を団地で整備し積極的に地域外から新規就農者の受け入れを行っている佐賀県嬉野市の取組みについて、先進地視察を行った。

さらに、新規就農希望者を確保するため「山口あぶトマト就農ゆめツアー」の開催を支援した。萩市・JA・やまぐち振興公社と連携して、参加者確保にむけた募集活動を行った。



佐賀県嬉野市への視察研修



山口あぶトマト就農ゆめツアー

イ 新規就農者の早期経営確立

昨年より部会活動のひとつとして実施されている若手研修会の開催を支援した。

これは、技術部会員が若手生産者のほ場を巡回しアドバイスを行うもので、高俣・阿東支部合同で開催された。これをきっかけに、高俣地区の若手生産者が阿東地区の優良農家への視察へ行くなど、支部間の交流の活性化にもつながった。

栽培終了後には、役員と若手生産者の情報交換会が開催された。若手生産者が今年の課題や次年にむけた目標を発表した。

また、2名の新規就農者を対象に、草勢管理や病虫害（褐色輪紋病、トマトキバガ）の課題について重点指導を行った。



若手研修会



若手生産者による優良農家への視察

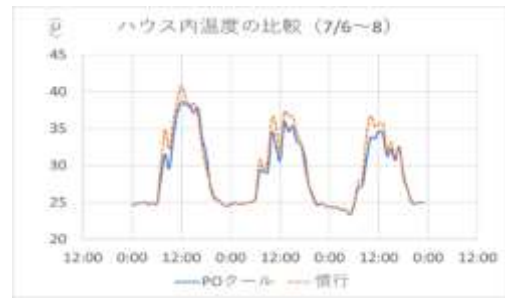
(2) 生産安定及び収益の確保

高俣支部研修会において、予想される気象状況や病虫害発生状況を踏まえた栽培管理指導を行った。

また、高温対策として、遮熱フィルムを用いた実証ほを設置し調査を行った。



高俣支部研修会



遮熱フィルムを用いた実証ほのハウス内温度比較

萩アグリ（株）

（１）運営体制づくり

トマト運営会議の定期的な開催を支援し、現場担当者からの報告・提案により役員が現状を把握できるように誘導した。

一方で、目標に対する達成状況や課題の共有に至っていないため、運営体制の見直しの必要性について役員へ提案を行った。

運営会議のメンバーには社長だけでなく、主要な理事に参加してもらうことでトマトの経営課題を理解してもらい、運営体制の見直しを行うことが意識統一され、当面は、現マネージャーが場長として農場の運営管理を行うことが決定した。

また、運営体制づくりの参考にしてもらうため、雇用型トマト経営を行う先進事例（株）江越農園への視察研修を行い、従業員の役割分担や人材育成について情報交換を行った。



社内運営会議



（株）江越農園への視察研修

（２）生産性の向上

栽培管理担当者の環境制御技術習得に向け、栽培状況の確認と助言を行った。

また、担当者が役員へ栽培状況を説明する場を設け、自分の管理を説明できるように誘導した。併せて、社内勉強会の開催を支援し、社内での情報共有に向けた場づくりを提案した。

現状および目標の数値化にむけ、出荷量や労働時間のデータ収集を支援した。

労働時間については、労務管理アプリの提案を行ったが、ボトムアップによる取組みを重視することとなり、導入は見送られることになった。



社内勉強会の様子



担当者による役員への栽培状況の説明

3 普及活動の成果

山口あぶトマト

(1) 担い手の確保・育成

ア 新規就農者受け入れ体制の検討、新規就農者の募集活動

新規就農者の受け入れ体制を再検討するため、関係機関を中心としたメンバーで「山口あぶトマト課題解決プロジェクト」が立ち上げられた。今後、各関係機関が課題解決にむけどのようなアクションを展開していくのか詰めていくことになる。

「山口あぶトマト就農ゆめツアー」には4名の参加があった。直近に萩市での就農が期待される人は確保できなかったが、そのうちの数名については、萩市による就農相談が継続されている。

イ 新規就農者の早期経営確立

若手研修会が定着し、若手生産者が技術を習得するために、支部を超えて自主的に交流する場面が増えてきた。昨年より出荷量が増加した新規就農者も確保できたが、猛暑の影響もあり新規就農者の平均収量は5.2t/10aにとどまった。

(2) 生産安定及び収益の確保

支部研修会等の部会活動を支援し、病虫害の発生や生育状況の情報提供を行った。猛暑の影響により、出荷数量は前年より減少した。また、近年の猛暑により高温対策が急務となっていることから、耐暑性の高い品種の検討やハウス内温度の低下対策について、引き続き取り組むことになった。

萩アグリ（株）

(1) 運営体制づくり

「トマト運営会議」における現場担当者（場長）と役員の協議の場が定着した。運営体制見直しの必要性が役員に理解され、場長が設置された。今後は、場長を中心に運営体制が改善され、従業員の育成や生産性の向上への取り組みが強化されることが期待される。

(2) 生産性の向上

環境制御技術や機器の設定方法について従業員の技術習得は進んだが、担当者の変更や猛暑の影響により、反収は昨年実績より下回り、大玉トマト（夏秋+冬春）15.3t/10a、ミニトマト7.6t/10aとなった。一方で、作業の効率化は進み、売上に占める人件費の割合は49.6%（R5年57.0%）となり、昨年より改善された。

4 今後の普及活動に向けて

山口あぶトマト部会については、引き続き新規就農者の確保・定着を図るため、部会や関係機関と密に連携し、地域外からの就農者の受け皿づくりを進めながら、積極的な募集活動、就農後の早期経営確立支援を行っていく。また、安定生産のためには、高温対策への対策が求められることから、これに対応した取り組みを進めていく。

萩アグリ（株）については、経営課題の把握やその改善を円滑に進めていくため、農場長を中心とした円滑な農場運営を早期に確立するための支援に取り組んでいく。